(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第5088802号
(P5088802)

(45)発行日　平成24年12月5日(2012.12.5)　(24)登録日　平成24年9月21日(2012.9.21)

(51)Int.Cl.　　F I
B65D 33/00 (2006.01)　　B65D 33/00　C
B65D 33/38 (2006.01)　　B65D 33/38

請求項の数 13　(全 15 頁)

(21)出願番号　特願2009-546104 (P2009-546104)
(86)(22)出願日　平成19年12月17日 (2007.12.17)
(86)国際出願番号　PCT/JP2007/074225
(87)国際公開番号　WO2009/078090
(87)国際公開日　平成21年6月25日 (2009.6.25)
審査請求日　平成22年4月14日 (2010.4.14)

(73)特許権者　000151461
株式会社東京自働機械製作所
東京都千代田区岩本町３丁目１０番７号
(74)代理人　100101867
弁理士　山本　寿武
(72)発明者　太田　直人
千葉県流山市駒木台１４９番地　株式会社東京自働機械製作所　設計開発部内
(72)発明者　石鍋　聡
千葉県流山市駒木台１４９番地　株式会社東京自働機械製作所　設計開発部内
(72)発明者　田辺　顕二郎
千葉県流山市駒木台１４９番地　株式会社東京自働機械製作所　設計開発部内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】包装袋

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
フィルム状の包材で形成され、表面と裏面が、上端縁、下端縁及び左右の側端縁で繋がれた形状の袋本体と、
前記袋本体の上端縁、下端縁又は左右の側端縁のうちいずれか一つの端縁と任意の間隔をおいて、少なくとも当該端縁と交わる他の端縁まで延びる開封誘導部と、
前記袋本体の端縁に形成した切れ目と、を備え、
前記開封誘導部は、前記包材を折り重ね、かつ当該折り重ねた領域の少なくとも根本部分を熱シールして形成してあり、
前記切れ目は、当該切れ目から前記開封誘導部に向かって前記包材を切り裂き、続いて前記開封誘導部に沿って前記包材を切り裂くことで、その切れ目が前記袋本体に充填された内容物の取出口を構成する位置に形成してあることを特徴とする包装袋。
【請求項２】
前記切れ目は、前記袋本体の上端縁に沿って形成した熱シール部に形成してあることを特徴とする請求項１の包装袋。
【請求項３】
前記切れ目は、前記袋本体の上端縁の一部に形成した熱シール部に形成してあることを特徴とする請求項１の包装袋。
【請求項４】
前記切れ目は、前記袋本体の上端縁と一つの側端縁とにそれぞれ形成してあることを特徴

とする請求項１の包装袋。
【請求項５】
前記切れ目は、前記袋本体の上端縁に沿って複数箇所に形成してあることを特徴とする請求項１の包装袋。
【請求項６】
前記各切れ目は、前記袋本体の一つの側端縁からあらかじめ設定した任意の距離にそれぞれ形成してあり、これら各切れ目が内容物を取り出す量の目安となることを特徴とする請求項５の包装袋。
【請求項７】
前記切れ目から前記開封誘導部へ向かって切り裂き案内する案内シール部が、前記包材を熱シールして前記袋本体に形成されていることを特徴とする請求項１の包装袋。
【請求項８】
前記案内シール部は、前記切れ目から前記開封誘導部へ向かう切り裂き案内線の両側に形成されていることを特徴とする請求項７の包装袋。
【請求項９】
前記開封誘導部は、前記取出口に沿って折り返し部が形成してあり、当該折り返し部を折り返して注ぎ口が形成される構成であることを特徴とする請求項１の包装袋。
【請求項１０】
前記開封誘導部と前記袋本体の上端縁との間の領域は、当該開封誘導部に沿って折り曲げることで摘み部を形成することを特徴とする請求項１の包装袋。
【請求項１１】
前記袋本体の上端縁に前記切れ目を形成するとともに、当該切れ目と前記袋本体の一つの側端縁との間に摘み用凹凸領域を形成したことを特徴とする請求項１の包装袋。
【請求項１２】
前記開封誘導部は、前記袋本体の上端縁に対して斜めに傾いた方向に延びていることを特徴とする請求項１の包装袋。
【請求項１３】
前記袋本体の上端縁に前記切れ目を形成するとともに、前記袋本体の少なくとも一つの側端縁に沿ってガゼット折り込み部が形成された請求項１の包装袋において、
前記切れ目を、前記ガゼット折り込み部よりも内側に形成したことを特徴とする包装袋。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、製品を収納する包装袋に係り、更に詳しくは開封部に特徴を有する包装袋に関する。
【背景技術】
【０００２】
包装袋には、密封状態で製品が充填されている。充填されている製品（内容物）を取り出す際には、包装袋を切り裂いて開封する。ここで、包装袋の一定箇所を開封するために、多くの包装袋には開封テープが貼着してある。この開封テープを一端から引っ張れば、包装袋から開封テープが分断して包装袋が開封される。
【０００３】
しかし、従来の開封テープは、包装袋の胴回りに沿って全周にわたり貼着され、これを包装袋から分断すると、包装袋の上部全体が開封される構成となっていた。このように包装袋の上部全体が開封された場合、一部を取り出した後に残存する内容物を保存しておくにも、再度の密封が困難であった。また、内容物が液体で、他の容器へ移し替える必要があるときには、包装袋の上部全体を開封した状態では内容物がこぼれやすい。
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】

【０００４】
本発明は、このような事情に鑑みてなされたもので、包装袋の一部に内容物の取出口を容易に形成することのできる包装袋の提供を目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
本発明の包装袋は、フィルム状の包材で形成され、表面と裏面が、上端縁、下端縁及び左右の側端縁で繋がれた形状の袋本体と、
袋本体の上端縁、下端縁又は左右の側端縁のうちいずれか一つの端縁と任意の間隔をおいて、少なくとも当該端縁と交わる他の端縁まで延びる開封誘導部と、
袋本体の端縁に形成した切れ目と、を備え、
開封誘導部は、包材を折り重ね、かつ当該折り重ねた領域の少なくとも根本部分を熱シールして形成してあり、
切れ目は、当該切れ目から開封誘導部に向かって包材を切り裂き、続いて開封誘導部に沿って包材を切り裂くことで、その切り口が袋本体に充填された内容物の取出口を構成する位置に形成してあることを特徴とする。
【０００６】
このように、本発明の包装袋は、簡易な操作で内容物の取出口を形成することができる。この取出口は、包装袋の一部を開封するだけであり、よって意図せず内容物がこぼれ出てしまうおそれも少ないし、再度の密封も容易である。
【０００７】
切れ目は、袋本体の上端縁に沿って形成した熱シール部に形成してもよいし、また袋本体の上端縁の一部に形成した熱シール部に形成してもよい。さらに、切れ目は、袋本体の上端縁と一つの側端縁とにそれぞれ形成してもよい。
【０００８】
さらに、切れ目を、袋本体の上端縁に沿って複数箇所に形成することもできる。各切れ目を、袋本体の一つの側端縁からあらかじめ設定した任意の距離にそれぞれ形成すれば、これら各切れ目が内容物を取り出す量の目安となり、一定量の内容物を容易に取り出し可能となる。
【０００９】
切れ目から開封誘導部へ向かって切り裂き案内する案内シール部を形成してもよい。この案内シール部は、包材を熱シールして袋本体に形成することができる。このような案内シール部を形成することで、切れ目から開封誘導部へ安定して切り裂くことが可能となる。案内シール部を、切れ目から開封誘導部へ向かう切り裂き案内線の両側に形成すれば、いっそう安定して切れ目から開封誘導部へと切り裂くことが可能となる。
【００１０】
開封誘導部は、取出し口に沿って折り返し部を形成し、当該折り返し部を折り返すことで注ぎ口が形成される構成としてもよい。このように構成すれば、特に内容物が液体の場合に、注ぎ口が内容物を取り出す際の案内として有効に機能して、内容物のこぼれを抑制することができる。
【００１１】
また、開封誘導部と袋本体の上端縁との間の領域は、当該開封誘導部に沿って折り曲げることで摘み部を形成する構成としてもよい。このように摘み部が構成されれば、包装袋をしっかり保持して内容物を取り出すことが可能となる。
【００１２】
また、袋本体の上端縁に切れ目を形成するとともに、当該切れ目と袋本体の一つの側端縁との間に摘み用凹凸領域を形成してもよい。切れ目から包装袋を切り裂く際、摘み用凹凸が滑りを防止するため、容易かつ安定して切り裂き操作を行うことができる。
【００１３】
さらに、開封誘導部を、上袋本体の上端縁に対して斜めに傾いた方向に延ばし、傾斜した取出口を形成することもできる。

【００１４】
さらにまた、本発明は、袋本体の少なくとも一つの側端縁に沿ってガゼット折り込み部が形成された包装袋においては、切れ目を、ガゼット折り込み部よりも内側に形成することが好ましい。
【図面の簡単な説明】
【００１５】
【図１】図１Ａは、本発明の第１実施形態に係る包装袋を示す裏面図である。図１Ｂは、図１ＡのＸ部を拡大して示す側面断面図である。
【図２】図２は、本発明の第１実施形態に係る包装袋の製造に用いられる縦形製袋充填包装機の概要を示す斜視図である。
【図３】図３Ａ～図３Ｄは、第１実施形態に係る包装袋の開封手順を示す斜視図である。
【図４】図４Ａは、本発明の第１実施形態に係る包装袋の取出口から液体を取り出す状態を示す斜視図である。図４Ｂは、本発明の第１実施形態に係る包装袋の取出口から乾燥パスタ麺を取り出す状態を示す斜視図である。
【図５】図５Ａは、本発明の第１実施形態に係る包装袋の使用方法の応用例を示す裏面図である。図５Ｂは、図４Ａの方法にて液体を注ぎ出す状態を示す斜視図である。図５Ｃは、図５Ａの方法にて液体を注ぎ出す状態を示す斜視図である。
【図６】図６Ａ～図６Ｃは、本発明の第１実施形態に係る包装袋の応用例を示す正面図である。
【図７】図７Ａは、第１実施形態に係る変形例１の包装袋を示す裏面図である。図７Ｂは、図７Ａの包装袋を開封した状態を示す裏面図である。
【図８】図８Ａは、第１実施形態に係る変形例２の包装袋を示す裏面図である。図８Ｂは、図８Ａの包装袋を開封した状態を示す裏面図である。
【図９】図９は、第１実施形態に係る変形例３の包装袋を示す裏面図である。
【図１０】図１０Ａは、第１実施形態に係る変形例４の包装袋を示す裏面図である。図１０Ｂは、図１０Ａの包装袋を開封した状態を示す裏面図である。
【図１１】図１１Ａは、第２実施形態に係る包装袋を示す裏面図である。図１１Ｂ～図１１Ｅは、それぞれ第２実施形態に係る包装袋の使用方法を示す拡大裏面図である。
【図１２】図１２Ａは、第２実施形態に係る変形例１の包装袋を示す裏面図である。図１２Ｂは、図１２Ａの包装袋を開封した状態を示す裏面図である。
【図１３】図１３Ａは、第３実施形態に係る包装袋を示す裏面図である。図１３Ｂは、図１３Ａの包装袋を開封した状態を示す開封部分の斜視図である。
【図１４】図１４は、第３実施形態に係る変形例１の包装袋を示す裏面図である。
【図１５】図１５Ａは、第４実施形態に係る包装袋を示す裏面図である。図１５Ｂは、図１５Ａの包装袋を開封して取出口を形成した状態を示す裏面図である。
【図１６】図１６Ａは、第４実施形態に係る変形例１の包装袋を示す裏面図である。図１６Ｂは、図１６Ａの包装袋を開封して取出口を形成した状態を示す裏面図である。
【図１７】図１７Ａは、第４実施形態に係る変形例２の包装袋を示す裏面図である。図１７Ｂは、図１７Ａの包装袋を開封して取出口を形成した状態を示す裏面図である。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１６】
本発明に係る好ましい実施の形態について図面を参照しながら説明する。
〔第１実施形態〕
図１乃至図１０は、本発明の第１実施形態に係る包装袋を説明するための図である。図１Ａは、第１実施形態に係る包装袋を示す裏面図であり、図１Ｂは、図１ＡのＸ部を拡大して示す側面断面図である。
第１実施形態の包装袋は、合成樹脂フィルム（包材）を用いて、表面と裏面が、上端縁、下端縁及び左右の側端縁で繋がれた形状の袋本体１を有している。図１Ａに示すように、本実施形態の袋本体１には、熱シールによって、縦シール部２及び横シール部３、４が形成されている。袋本体１の内部には、密封前に製品（以下、内容物ともいう）が充填さ

れる。

【００１７】

袋本体１の縦シール部２は、帯状の包材の両側縁部を縦方向に重ね合わせ、その重ね合わせ部分を熱シールして形成される。この縦シール部２は、袋本体１の裏面ほぼ中央部で縦方向に延びている。

【００１８】

袋本体１の横シール部３、４は、縦シール部２の形成により筒状となった包材の上端縁及び下端縁を熱シールして形成される。

【００１９】

また、本実施形態の袋本体１には、横シール部３、４と一定の間隔をおいて周方向に延びる開封誘導部５が形成されている。この開封誘導部５は、上端縁側の横シール部３と比較的近い位置に形成してある。この開封誘導部５は、図１Ｂに示すように、包材をひだ状に折り重ねて形成されており、この折り重ねた領域（以下、折重ね部という）が袋本体１の外面に露出している。

【００２０】

本実施形態の開封誘導部５は、折重ね部の全領域が熱シールされている。なお、熱シールすべき領域は、折重ね部の全領域である必要はなく、少なくとも折重ね部の根本部分６ａが熱シールされていればよい。また、折重ね部は、熱シールする代わりに、接着剤を用いて一部又は全領域を接着してもよい。

【００２１】

袋本体１には、上端縁に開封用の切れ目７が形成されている。この切れ目７は、袋本体１の側端縁から一定距離離れた位置に形成され、上端縁から縦方向に横シール部３の途中まで切り込まれている。この切れ目７は、横シール部３を縦方向に引き裂き、さらに連続して開封誘導部５まで袋本体１を切り裂くように、切り込み方向を調整してある。

なお、図１Ａに示す切れ目７は、Ｖ字形状のノッチとして描かれているが、Ｕ字形状や矩形状でもよく、また単に切込線が縦方向に切り込んであるだけもよい。

【００２２】

〔包装袋の製造方法〕

図２は、第１実施形態に係る包装袋の製造に用いられる縦形製袋充填包装機の概要を示す斜視図である。

包材ロール２００から繰り出された帯状の包材は、縦形製袋充填包装機１００のフォーマ１０１及び製袋筒１０２によって筒状に成形された後、縦シール装置１０３により重ね合わせ部分が熱シールされて縦シール部２が形成される。その後、横シール装置１０４によって筒状にした包材の下側（包装袋１の上端縁）が熱シールされて横シール部３が形成され、次いで内容物が内部へ充填された後、再び横シール装置１０４により包材の上側（包装袋１の下端縁）が熱シールされて横シール部４が形成される。このようにして、密封した袋本体１が製造される。なお、包装袋の製造時には開封誘導部５がフォーマ１０１に引っかからないように、袋本体１が上下逆になって製造される。

【００２３】

また、縦形製袋充填包装機１００には、包材の繰り出し経路上に、開封誘導部成形装置１０５が設置してある。開封誘導部成形装置１０５は、帯状の包材を搬送方向とほぼ直交する方向へ全幅にわたってひだ状に折り重ねた後、その折り重ね部分を熱シールする機能を有している。同装置１０５によって、帯状の包材の全幅にわたり直線的に延びる開封誘導部５が成形される。

【００２４】

〔包装袋の開封手順〕

図３Ａ～図３Ｄは、第１実施形態に係る包装袋の開封手順を示す斜視図である。

袋本体１を開封する場合、切れ目７を境にして、横シール部３の両部分３ａ、３ｂをそれぞれ指で摘み、袋本体１の側端縁寄りの部分３ａを下方向に向かって引き下す。これにより、袋本体１は切れ目７から引き裂かれるようになる。このようにして側端縁寄りの部

分３ａを下方向に引き下していくと、破断線Ａは同方向に進行して横シール部３内を縦断していく（図３Ａ参照）。さらに、側端縁寄りの部分３ａをそのまま下方向に引き下していくと、破断線Ａは横シール部３から引き続き袋本体１を縦断して開封誘導部５の根本部分６ａに到達する（図３Ｂ参照）。

なお、袋本体１を形成する包材に、積層フィルムを用いた場合は、一つの層に多数の縦方向のスリットを形成しておき、袋本体１がスリットに案内されて縦方向に引き裂き易くなるよう構成してもよい。

【００２５】

破断線Ａが開封誘導部５に到達した後は、側端縁寄りの部分３ａを横方向に引く（図３Ｃ参照）。そうすると、破断線Ａは開封誘導部５に沿って袋本体１の側端縁へと導かれる。破断線Ａが側端縁に到達すると、側端縁寄りの部分３ａを含む小片８が袋本体１から切り離される（図３Ｄ参照）。これにより袋本体１の上端縁側角部に取出口１０が開口する。この取出口１０の縁部１１は、袋本体１を縦方向に切り裂いてできた切り口１２と、開封誘導部５に沿って袋本体１を横方向に切り裂いてできた切り口１３とで形成されている。

上述したように簡単な開封手順で小片８を切り離して取出口１０を形成できるため、比較的力の弱い人でも容易に袋本体１を開封することが可能である。

【００２６】

〔取出口の作用効果〕

図４Ａは、第１実施形態に係る包装袋の取出口から液体Ｌ（内容物）を取り出す状態を示す斜視図であり、図４Ｂは、同じく取出口から乾燥パスタ麺等の細い棒状製品Ｓ（内容物）を取り出す状態を示す斜視図である。

袋本体１の取出口１０の縁部１１を形成する切り口１３は、包材を折り重ねてなる開封誘導部５に沿って形成されているので適度に硬く腰がある。よって、例えば図４Ａに示すように、袋本体１からこの液体Ｌを注ぎ出す場合、液圧によって切り口１３が不規則に振れてしまうおそれがなく、安定して一定の方向へ液体Ｌを注ぎ出すことができる。

【００２７】

また、上述した操作をもって形成される取出口１０は、袋本体１の上端縁に形成した切れ目７の位置を任意に設定することで、開口面積を調整することが可能である。例えば、図４Ｂに示すように、乾燥パスタ麺等の細い棒状製品Ｓを充填した袋本体１に対し、当該棒状製品Ｓをあらかじめ設定した量だけ取り出せる開口面積となるように、切り口７の位置を設定しておけば、毎回ほぼ一定量の内容物を取出口１０から取り出すことが可能となる。

【００２８】

図５Ａは、第１実施形態に係る包装袋の他の使用方法を示す裏面図である。

図５Ａに示すように、袋本体１は、開封後の利用時に、開封誘導部５の根本部分６ａに沿ってその上側領域を下方向に折り曲げ、この折り曲げ部分を摘み部２０として利用することもできる。このように摘み部２０が構成されれば、包装袋をしっかり保持して内容物を取り出すことが可能となる。

【００２９】

また、例えば、小さな開口の容器に内容物を移し替えるような場合にも、開封誘導部５の上側領域を下方向に折り曲げておくと都合がよい。すなわち、図５Ｂに示すように、開封誘導部５の上側領域を折り曲げずに内容物を注ぎ出した場合、内容物を移し替える先の容器Ｐの開口縁Ｐａに、切り口１２の上端角部１２ａが干渉してしまうおそれがある。また、袋本体１をあまり傾けすぎると、切り口１２側から内容物がこぼれ出て飛散してしまうおそれがある。これに対して、図５Ｃに示すように、開封誘導部５の上側領域を折り曲げた状態では、切り口１２の上端角部１２ａが容器Ｐの開口縁Ｐａと干渉するおそれがない。しかも、袋本体１の切り口１２が閉じられ、切り口１３のみが開口することになるため、切り口１２側から内容物がこぼれ出て飛散してしまうおそれもない。

【００３０】

なお、本発明は、上述した実施形態に限定されるものではなく、必要に応じて種々の応用実施または変形実施が可能であることは勿論である。

例えば、第１実施形態の包装袋は、袋本体１の上下端縁を横シール部３、４とした縦ピロー型の包装形態としたが、これに限らず、本発明は図６Ａに示すような上端縁１ａ及び左右側端縁１ｂ，１ｃの三方を熱シールした包装袋に適用することもできる。また、本発明は、図６Ｂに示すような下端縁１ｄ及び左右側端縁１ｂ，１ｃの三方を熱シールし、且つ上端縁に形成予定の切れ目７の周辺領域１ｅを熱シールした包装袋に適用することもできる。さらに、本発明は、図６Ｃに示すような上下端縁１ａ，１ｄ及び左右側端縁１ｂ，１ｃの四方を熱シールした包装袋に適用することもできる。

【００３１】

また、第１実施形態の包装袋では、袋本体１の全周にわたって開封誘導部５を形成する構成としたが、この開封誘導部５は、少なくとも取出口１０が形成される開封部分に対して設けられていればよい。

【００３２】

〔第１実施形態の変形例１〕

図７Ａは、第１実施形態に係る変形例１の包装袋を示す裏面図であり、図７Ｂは、図７Ａの包装袋を開封した状態を示す裏面図である。なお、以降の説明において、第１実施形態で説明した包装袋と同一又は相当する部分には、同一の記号を付してその詳細な説明は省略する。

【００３３】

図７Ａ、図７Ｂに示すように、開封用の切れ目７は、横シール部３の側端縁に形成してもよい。この袋本体１を開封する場合は、切れ目７より上側の横シール部３と、切れ目７より下側の袋本体１とを摘んで、切れ目７からの破断線Ｂを横シール部３内において横方向に任意の長さだけ横断させ、次いで破断線Ｂを開封誘導部５に到達するように縦方向に方向変換して縦断させる。その後、開封誘導部５に沿って横方向に袋本体１を切り裂けば、袋本体１から小片８が切り離され、袋本体１の上端縁側角部に取出口１０が開口する。

【００３４】

〔第１実施形態の変形例２〕

図８Ａは、第１実施形態に係る変形例２の包装袋を示す裏面図であり、図８Ｂは、図８Ａの包装袋を開封した状態を示す裏面図である。

図８Ａ、図８Ｂに示すように、袋本体１は、上端縁に切れ目７を形成するとともに、この切れ目７と袋本体１の一つの側端縁との間に摘み用凹凸領域３０を形成してもよい。この摘み用凹凸領域３０は、包材が滑りにくくするためのもので、熱シールによって形成することができる。この摘み用凹凸領域３０を形成することで、袋本体１の開封時において、利用者が横シール部３をしっかり保持することができる。したがって、包装袋の開封時には、摘み用凹凸領域３０を摘んで袋本体１から小片８を切り取り易くなり、取出口１０をいっそう容易に形成することが可能となる。

【００３５】

〔第１実施形態の変形例３〕

図９は、第１実施形態に係る変形例３の包装袋を示す裏面図である。

第１実施形態で説明した袋本体１の各構成は、図９に示すようなガゼット付き袋本体１に対しても同じように適用することができる。ガゼット１Ｇは、袋本体１の両側部に形成した内側への折り込み部である。ガゼット付きの袋本体１では、周方向に延びる開封誘導部５は、ガゼット１Ｇとともに袋本体１の両側部で内側に折り込まれている。

【００３６】

このような構成のガゼット付き袋本体１にあっては、ガゼット１Ｇの内側折り込み端縁１ｇよりもさらに内側に切れ目７を形成することが好ましい。このような位置に形成した切れ目７から縦方向に袋本体１を切り裂き、続いて開封誘導部５の上縁に沿って横方向に袋本体１を切り裂けば、小片８の部分が切り取られ、取出口１０が形成される。

【００３７】

〔第１実施形態の変形例４〕
図１０Ａは、第１実施形態に係る変形例４の包装袋を示す裏面図であり、図１０Ｂは、図１０Ａの包装袋を開封した状態を示す裏面図である。
図１０Ａ、図１０Ｂに示すように、開封誘導部５は、横シール部３と平行ではなく、切り裂き方向にある一方の側端縁に向かって斜め上向きに延ばして形成してもよい。この開封誘導部５に沿って袋本体１を切り裂いて取出口１０を形成すれば、当該取出口１０の切り口１３は斜め上向きに突き出た形状となるので、例えば、液体（内容物）を一定の方向へ安定して注ぎ出すことが容易となる。
【００３８】
〔第２実施形態〕
図１１Ａは、第２実施形態に係る包装袋を示す裏面図であり、図１１Ｂ～図１１Ｅは、それぞれ第２実施形態に係る包装袋の使用方法を示す拡大裏面図である。
図１１Ａに示すように、第２実施形態の包装袋では、開封用の切れ目７が袋本体１の上端縁に沿って複数箇所（図中では３箇所）に形成してある。これら複数の切れ目７は、袋本体１の側端縁から任意の間隔をおいて形成してある。
【００３９】
この袋本体１を開封するには、任意の切れ目７から開封誘導部５まで破断線Ａを縦方向に進行させ、さらに開封誘導部５に沿って横方向に誘導させればよい。これにより、袋本体１から小片８を切り離し、取出口１０を形成することができる。
【００４０】
第２実施形態の包装袋は、切り裂きに用いる切れ目７を選択することで、取出口１０の開口面積を任意に変えることができる。これら各切れ目７は、内容物を取り出す量の目安となる。
例えば、図４Ｂに示したような乾燥パスタ麺等の細い棒状製品Ｓが袋本体１に充填されている場合を想定する。そして、袋本体１の側端縁から数えて一つ目の切れ目７は、一人分の乾燥パスタ麺がちょうど取り出せる開口面積の取出口１０を形成するように形成位置を調整しておく。同様に、袋本体１の側端縁から数えて二つ目の切れ目７は、二人分の乾燥パスタ麺がちょうど取り出せる開口面積の取出口１０を形成するように形成位置を調整しておく。さらに、袋本体１の側端縁から数えて三つ目の切れ目７は、三人分の乾燥パスタ麺がちょうど取り出せる開口面積の取出口１０を形成するように形成位置を調整しておく。
このように、各切れ目７の形成位置を設定することで、切れ目７を選択して袋本体１を切り裂くだけで、希望する量の乾燥パスタ麺がちょうど取り出せる開口面積の取出口１０を形成することが可能となる（図１１Ｂ～図１１Ｄ参照）。
【００４１】
また、図１１Ｅに示すように、袋本体１の側端縁から数えて一つ目の切れ目７を縦方向に切り裂くとともに、他の任意の切れ目７も縦方向に切り裂き、各切れ目７の間を取り除くように、開封誘導部５に沿って袋本体１を切り取る。そして、残存する切れ目７から側端縁までの部分について、横シール部３を切除すれば、当該部分が突き出た注ぎ口４０となる。このような形状の注ぎ口４０は、液体を注ぎ出すのに好適である。
【００４２】
〔第２実施形態の変形例１〕
図１２Ａは、第２実施形態に係る変形例１の包装袋を示す裏面図であり、図１２Ｂは、図１２Ａの包装袋を開封した状態を示す裏面図である。
図１２Ａに示すように、切れ目は、横シール部３の上端縁にある第１の切れ目７ａと、横シール部３の側端縁にある第２の切れ目７ｂの二箇所に形成してもよい。この袋本体１を開封する場合は、第２の切れ目７ｂから湾曲して開封誘導部５に至る破断線Ｂに沿って袋本体１を切り裂くとともに、第１の切れ目７ａから破断線Ａに沿って縦方向に開封誘導部５まで袋本体１を切り裂く。次いで、各切れ目７ａ、７ｂの間の小片８を切り取るように、開封誘導部５に沿って袋本体１を切り裂く。その後、残存する第２の切れ目７ｂから

側端縁までの部分について、横シール部３を切除すれば、当該部分が突き出た注ぎ口４０となる。このような形状の注ぎ口４０は、液体を注ぎ出すのに好適である。

【００４３】

〔第３実施形態〕

図１３Ａは、第３実施形態に係る包装袋を示す裏面図であり、図１３Ｂは、図１３Ａの包装袋を開封した状態を示す開封部分の斜視図である。

本実施形態の包装袋は、既述した第１実施形態の包装袋に対し、さらに横シール部３から開封誘導部５まで延びる案内シール部５０を形成した構成である。この案内シール部５０は、包材の一定の領域を熱シールしたものであり、横シール部３の上端縁にある切れ目７よりも内側寄りに配置されている。

【００４４】

本実施形態に係る包装袋は、切れ目７から縦方向に袋本体１を切り裂いたとき、案内シール部５０がその切り裂き方向を案内するので、特に袋本体１の内側へ破断線が曲がることを防止することができ、綺麗な取出口１０を容易に形成することができる。

また、袋本体１の開封後は、図１３Ｂに示すように、案内シール部５０が取出口１０の切り口１２を閉塞するため、取出口１０は切り口１３のみが開口しており、したがって、内容物が切り口１２からこぼれ出して飛散するおそれがない。

【００４５】

〔第３実施形態の変形例１〕

図１４は、第３実施形態に係る変形例１の包装袋を示す裏面図である。

図１４に示すように、切れ目７から開封誘導部５へ向かう縦方向の切り裂き案内線の両側に、二本の案内シール部５０を形成してもよい。このように二本の案内シール部５０を形成することで、袋本体１を開封する際に、切れ目７から開封誘導部５まで縦断する破断線Ａが横方向に曲がることを防止でき、いっそう確実に開封誘導部５へ向かって縦方向に袋本体１を切り裂くことが可能となる。

【００４６】

〔第４実施形態〕

図１５Ａは、第４実施形態に係る包装袋を示す裏面図であり、図１５Ｂは、図１５Ａの包装袋を開封して取出口を形成した状態を示す裏面図である。

図１５Ａに示すように、第４実施形態の袋本体１は、第１実施形態の袋本体１において、開封誘導部５の所定の位置に折返し用切れ目６０を形成した構成である。この折返し用切れ目６０は、外面に露出している開封誘導部５に対し、根本部分６ａに達しない長さで縦方向に切り込んで形成される。また開封誘導部５には、根本部分６ａから斜めに延び、折返し用切れ目６０において谷形の頂部が接触する２本の折返し線６１が形成されている。この折返し線６１は、開封誘導部５を折り返す際に、ラインに沿って折り目を案内する機能を有している。なお、折返し用切れ目６０及び折返し線６１は、袋本体１の裏面側と対向する表面側にも同じように形成してある。

【００４７】

この袋本体１を開封する手順は、第１実施形態の袋本体１と同様であり、袋本体１の開封後も第１実施形態の袋本体１とほぼ同様の取出口１０が形成される。ただし、第４実施形態の袋本体１は、側端縁側の開封誘導部５を折返し線６１に沿って折り返すことで、図１５Ｂに示すように、注ぎ口４０が突き出た取出口１０に形成することができる。このような注ぎ口４０を形成することで、例えば液体が充填してある袋本体１の場合、取出口１０の注ぎ口４０が液体を効率的に案内することができ、円滑に注ぎ出すことが可能となる。

【００４８】

〔第４実施形態の変形例１〕

図１６Ａは、第４実施形態に係る変形例１の包装袋を示す裏面図であり、図１６Ｂは、図１６Ａの包装袋を開封して取出口を形成した状態を示す裏面図である。

図１６Ａに示すように、袋本体１の開封誘導部５に形成する折返し用切れ目６０は、Ｖ

字形状に切り込んであってもよい。この袋本体１は、開封後、開封誘導部５を折返し線に沿って折り返して取出口１０を形成した際に、図１６Ｂに示すように開封誘導部側切り口１３から先端縁まで直線状に延びる注ぎ口４０が突き出すようになる。したがって、この取出口１０は、既述した第４実施形態の取出口１０よりも綺麗な注ぎ口４０となり、液体を注ぎ出す際にはいっそう円滑に注ぎ出すことが可能となる。

【００４９】

〔第４実施形態の変形例２〕

図１７Ａは、第４実施形態に係る変形例２の包装袋を示す裏面側の概略図であり、図１７Ｂは、図１７Ａの包装袋を開封して取出口を形成した状態を示す裏面側の概略図である。

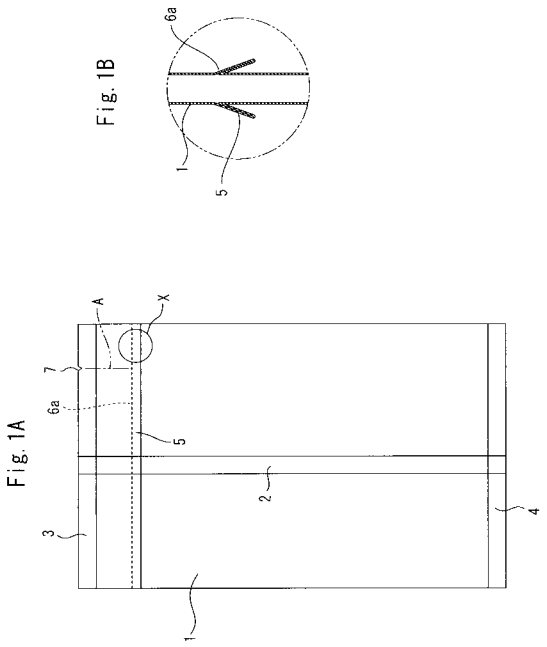
図１７Ａに示すように、袋本体１の開封誘導部５の側端縁側は、折返し用切れ目６０を形成する代わりに、折重ね部から注ぎ口４０が突出した形状に形成されてもよい。この注ぎ口４０は、例えば、開封誘導部５を注ぎ口４０が突出する幅分だけ予め形成し、その後不要な部分を切り取ることで形成することができる。この袋本体１は、開封誘導部５を折返し線６１に沿って折り返し、取出口１０を形成した際に、図１７Ｂに示すように、注ぎ口４０が取出口１０から綺麗な形で突き出すようになる。したがって、この取出口１０は、さらに綺麗な注ぎ口４０となり、液体を注ぎ出す際にはいっそう円滑に注ぎ出すことが可能となる。

【産業上の利用可能性】

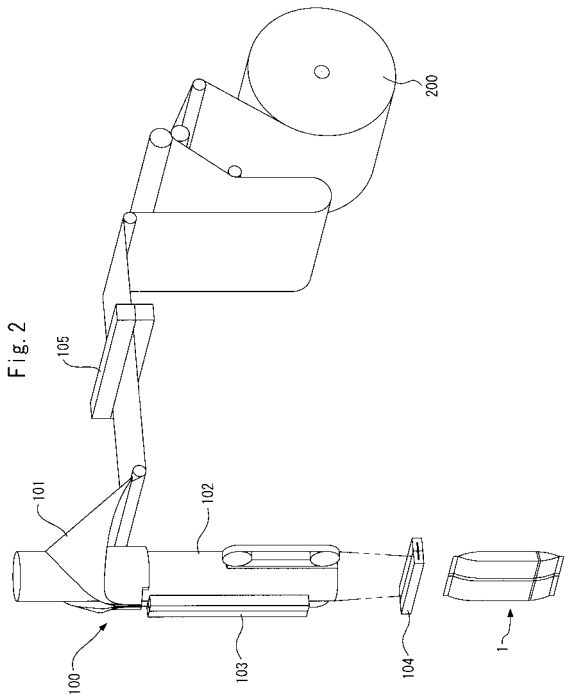
【００５０】

以上に説明のとおり、本発明の包装袋は、包装袋の一部に内容物の取出口を容易に形成することができ、内容物を安定して取り出すことが可能となり、意図しない内容物のこぼれ出しも少ない。

【図１】



【図２】



【図３】

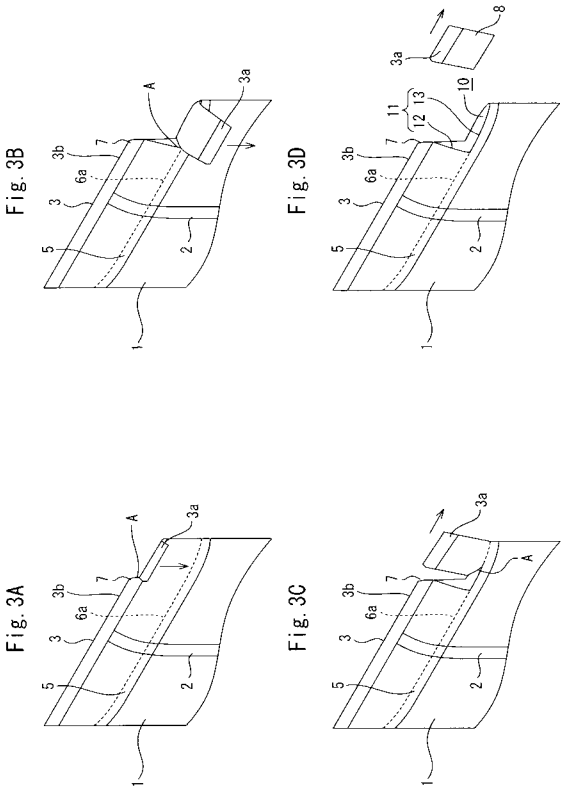


Fig. 3B
Fig. 3D
Fig. 3A
Fig. 3C

【図４】

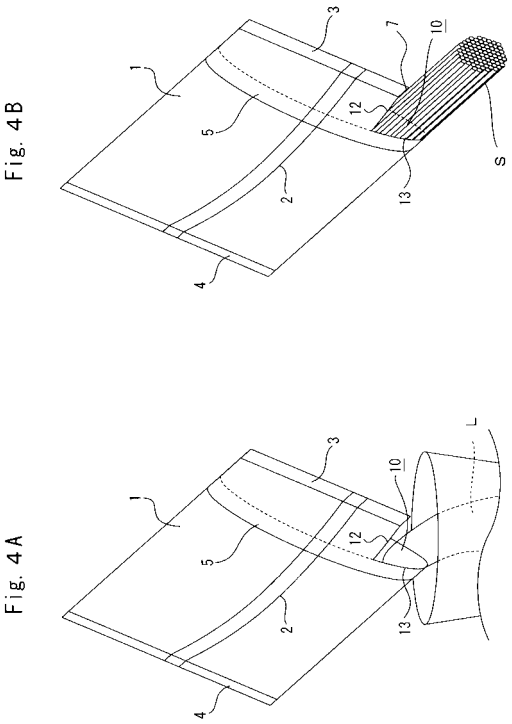


Fig. 4B
Fig. 4A

【図５】

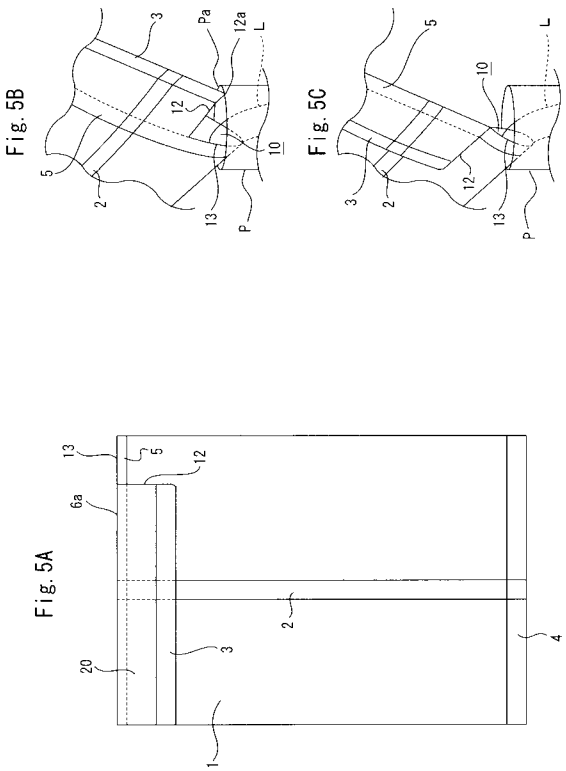


Fig. 5B
Fig. 5C
Fig. 5A

【図６】

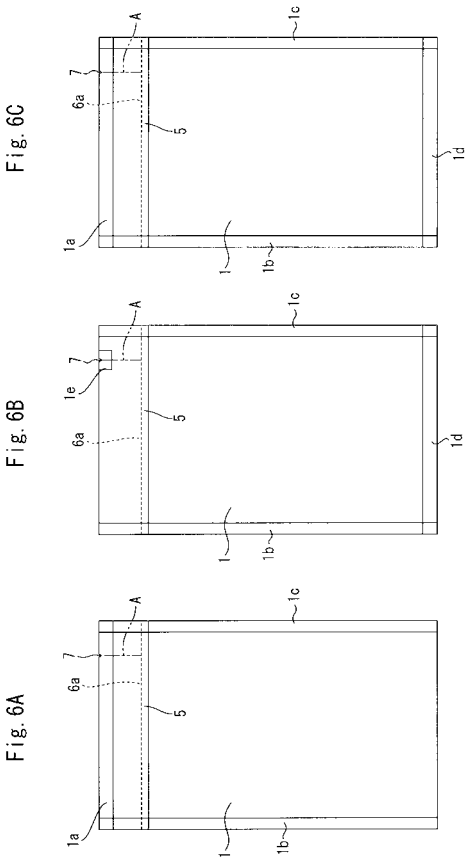


Fig. 6C
Fig. 6B
Fig. 6A

【図７】

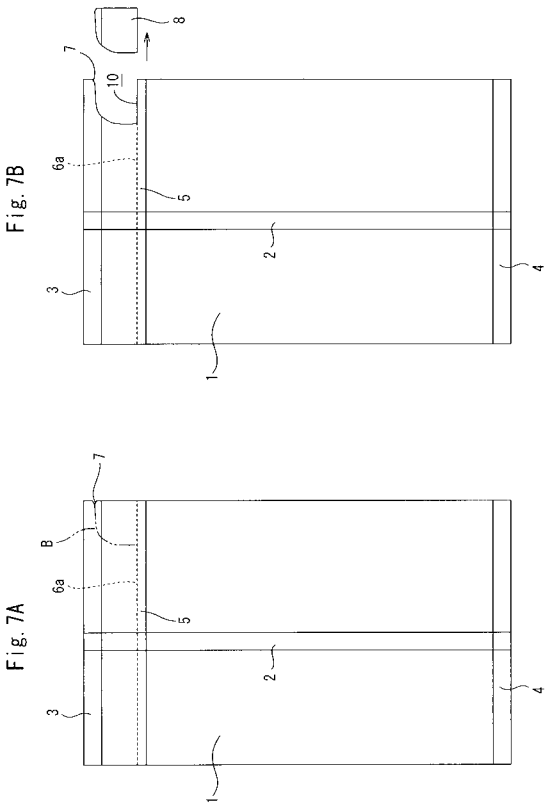


Fig.7B
Fig.7A
8
7
10
6a
5
2
4
3
1
B

【図８】

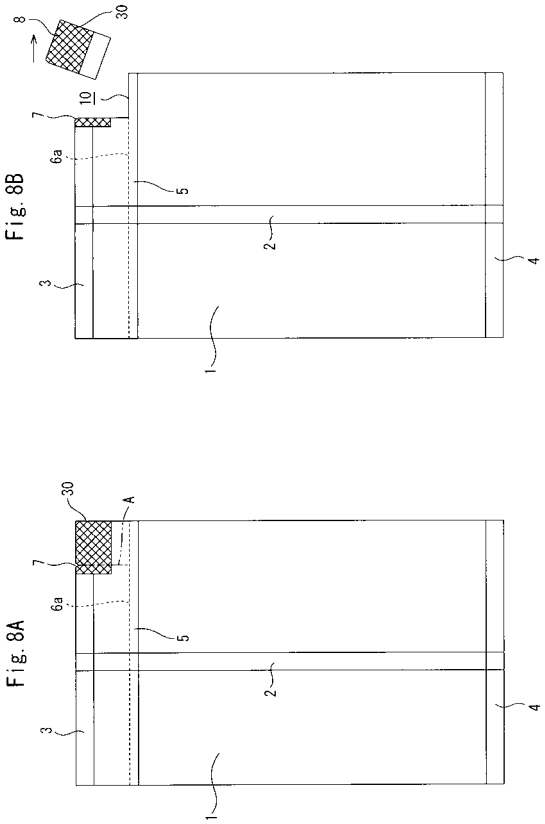


Fig.8B
Fig.8A
8
30
7
10
6a
5
2
4
3
1
A

【図９】

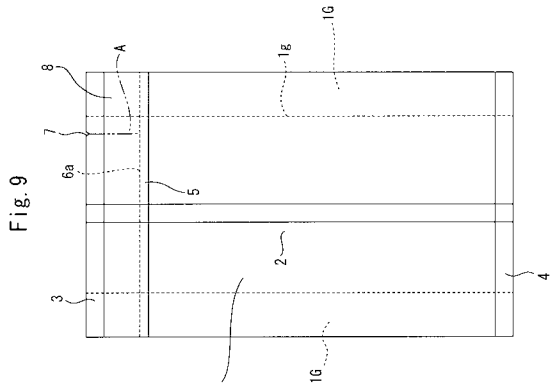


Fig.9
8
A
1g
1G
7
6a
5
2
4
3
1

【図１０】

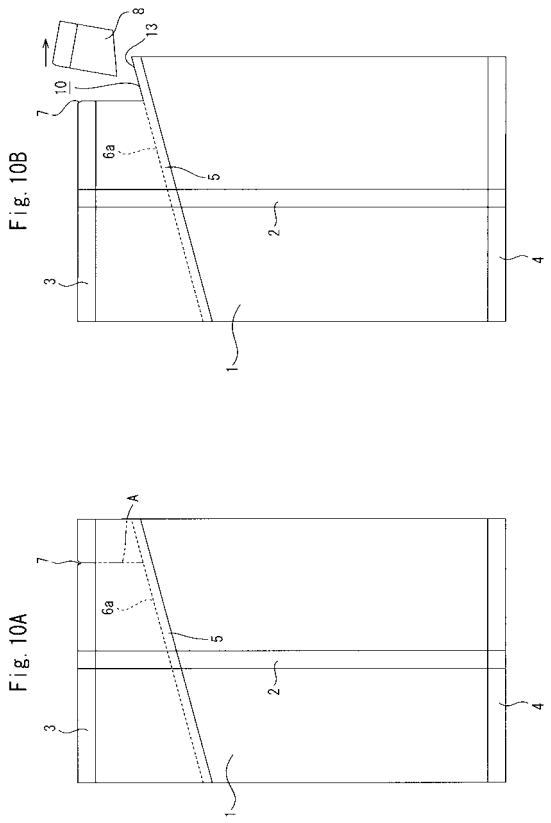
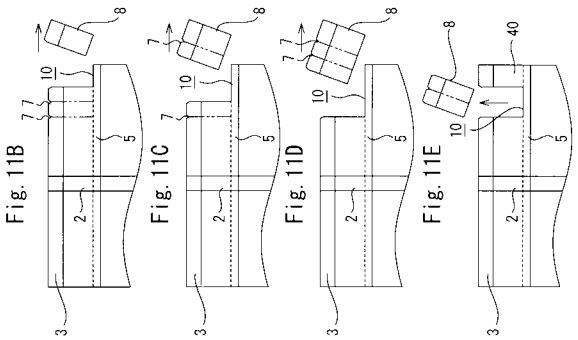
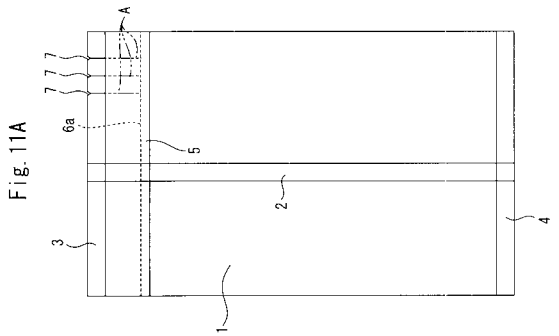


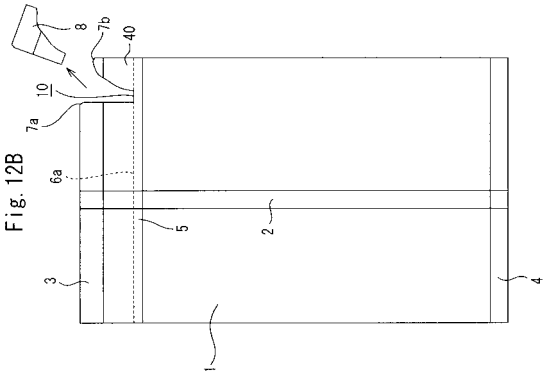
Fig.10B
Fig.10A
8
13
10
7
6a
5
2
4
3
1
A

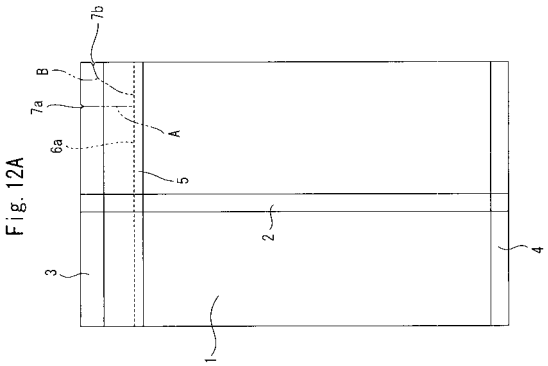
【図１１】



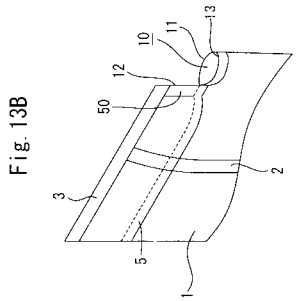


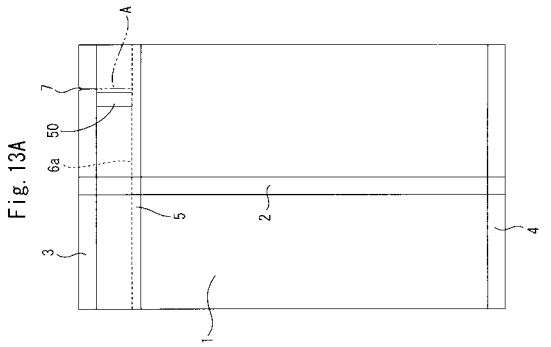
【図１２】



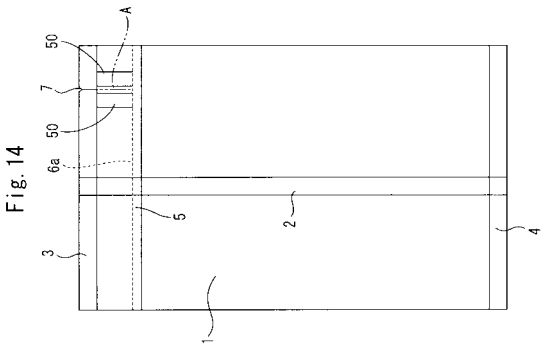


【図１３】





【図１４】



【図１５】

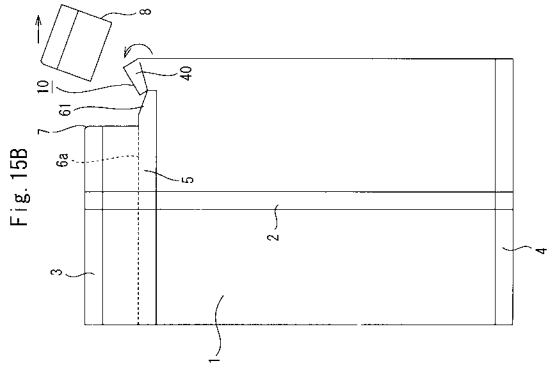


Fig. 15B

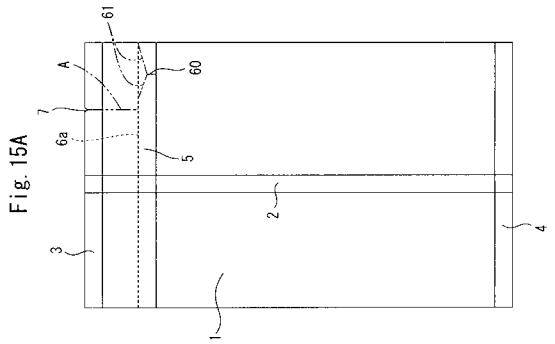


Fig. 15A

【図１６】

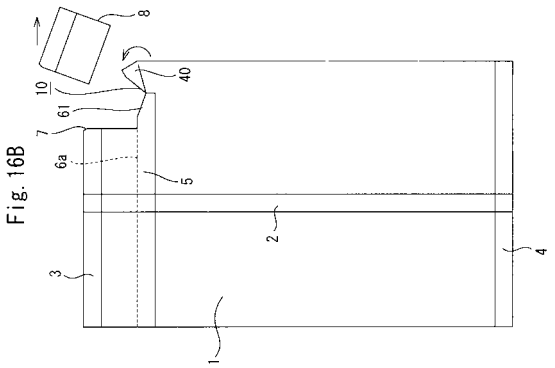


Fig. 16B

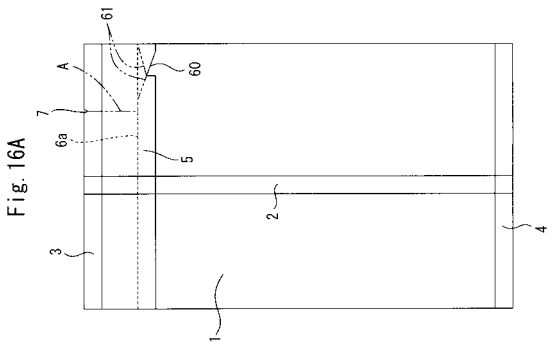


Fig. 16A

【図１７】

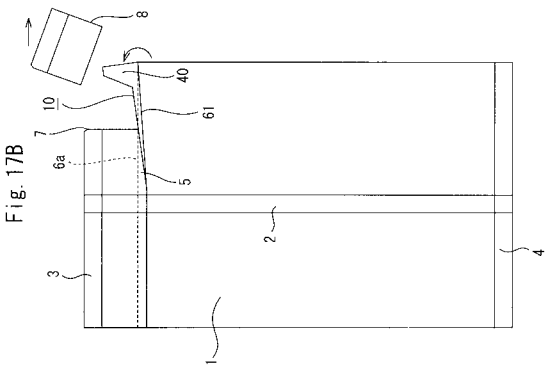


Fig. 17B

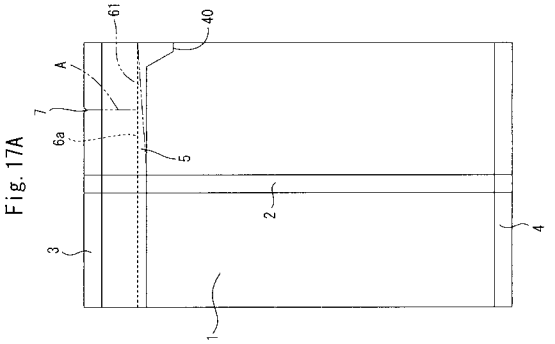


Fig. 17A

フロントページの続き

審査官　高橋　裕一

(56)参考文献　特開２００５－１１９７０５（ＪＰ，Ａ）
実開昭５５－１７９１４６（ＪＰ，Ｕ）
特開平０４－００６０６６（ＪＰ，Ａ）
特開２００６－１５１４６３（ＪＰ，Ａ）
実開昭６３－０７０９６４（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
B65D30/00-33/38